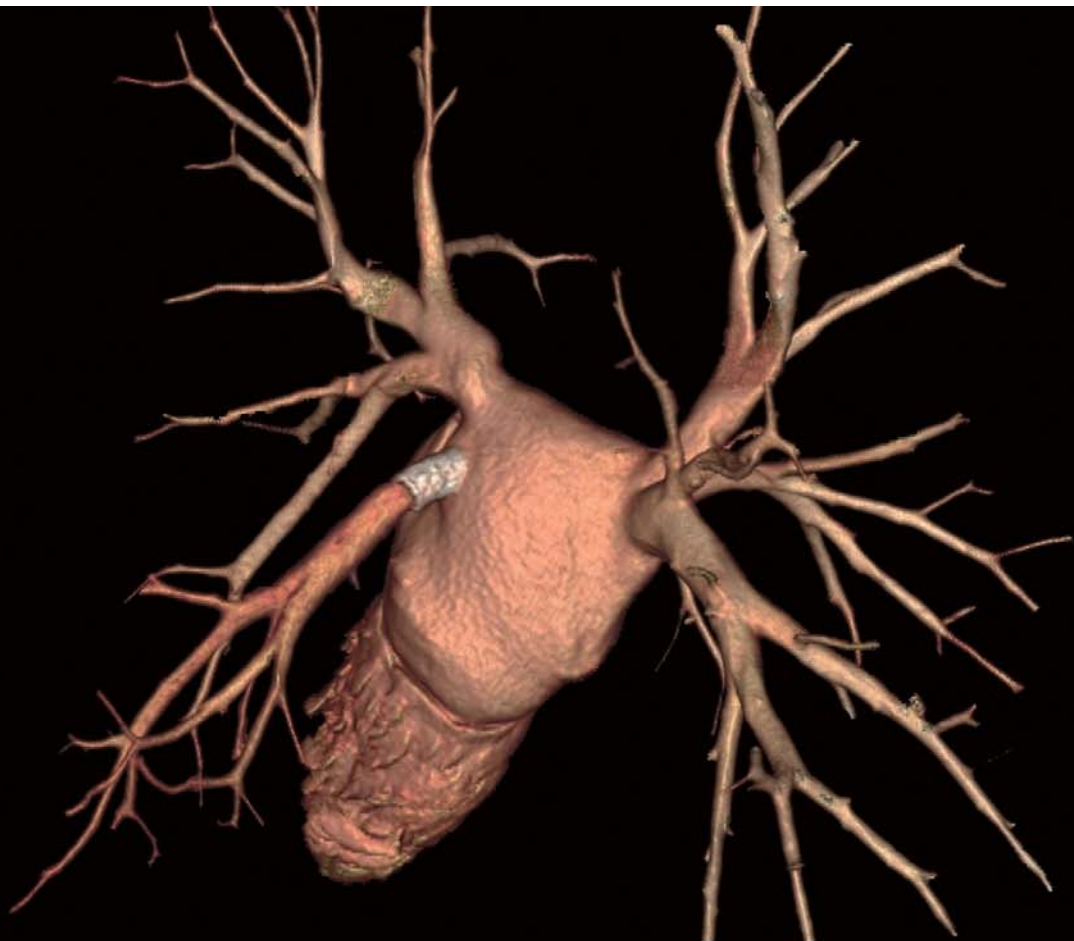


# つなぐ

Vol.57

2022.9月



カテーテルアブレーション治療は、1980年代前半に始まり、1990年に入ってから頻脈性不整脈に対して有効な治療法として全世界で施行されるようになった。発作性心房細動は肺静脈開口部あるいは肺静脈に迷入している心筋からの連続的な異常電気信号によつて発生することがわかっており、この部位に対して焼灼を行うことで心房細動の発生を抑制している。

しかし、1,000人に1人程度ではあるが焼灼によつて肺静脈が狭窄してしまう合併症が存在する。肺静脈狭窄症では労作時呼吸困難、咳、血痰、胸痛、反復する呼吸器感染症などの非特異的な症状がみられ、初期には肺塞栓症、肺結核、肺癌などと誤診される場合が多いと報告されている。

この合併症に対して当院で行っているのが肺静脈へのステント留置術だ。この治療はインターベンションを行う医師だけでは行えない。アブレーションを行う医師とタッグを組んで、的確な狭窄部位をアブレーターが誘導することによつて成立する。

当院の症例では他院で発生した肺静脈狭窄に対するステント留置術を依頼されることが多く、遠く離れた地域から患者さんが来院されている。不整脈チームとインターベンションチームが垣根を超えてつながり合うことでできない治療がここにはある。



第66回

# 小倉循環器内科セミナー

2022年 9月30日(金) 18:00~18:30

## 慢性心不全診療の 新たなる展開

～EMPEROR-Reduced・  
Preserved試験から考察する～

座 長

小倉記念病院 副院長  
循環器内科主任部長 安藤 献児

講 師

京都府立医科大学大学院医学研究科  
循環器・腎臓内科学 教授  
的場 聖明 先生



## 参加方法



ZOOMによる  
WEB参加のみとなります!

ZOOMの事前登録は不要ですが、  
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



## PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民  
公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研修会  
→④zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



## スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで  
いただくと参加が可能になります。

